

平成 19 年度 深海調査研究公募船舶機器・海域等について

平成 19 年度公募対象船舶機器の仕様、改造、追加及び、海域情報並びに気象情報などを示す。公募対象船舶機器・パイロード機器の詳細情報は、各船舶機器の「利用の手引き」を参照のこと。なお、調査海域、海底地形図の情報及び気象・海象情報等その他不明な点については、JAMSTEC 計画推進グループに問い合わせのこと。

(深海事務局：段野、高橋)

電話 (046) 867-9880 FAX (046) 869-0812 E-mail : shinkai@jamstec.go.jp

1 . 公募対象船舶機器の変更点

- (1) 無人探査機「かいこう 7000」は大幅な改造を行い、性能を向上させた。
- (2) 「よこすか」ディープ・トウ (4000m 級) は、新規に公募対象船舶機器として「よこすか」に常備した。

2 . 平成 19 年度 公募対象船舶、調査機器等

- (1) 潜水調査船「しんかい 6500」と支援母船「よこすか」
 - ・一行動における潜航回数の設定は自由であるが、連続潜航は原則、最大 5 日間とする。
 - ・「よこすか」には、「しんかい 6500」の安全確認に使用する「よこすか」ディープ・トウ (4000m 級) を常時搭載している。調査機器として使用可能であるが、詳細な運用方法については課題採択後に調整の必要がある。
- (2) 無人探査機「かいこう 7000」と深海調査研究船「かいいい」
 - ・無人探査機「かいこう 7000」 (Max . Depth : 7000m) を搭載した航海と深海調査研究船「かいいい」単独の航海がある。
- (3) 無人探査機「ハイパードルフィン」と海洋調査船「なつしま」
 - ・「ハイパードルフィン」と「ディープ・トウ」は「なつしま」に同時搭載は出来ない。
 - ・「ハイパードルフィン」は「よこすか」「かいいい」に搭載できない。
 - ・「ハイパードルフィン」の連続潜航は、原則、最大 8 日間とする。
 - ・「なつしま」はマルチナロービーム音響測深機 (SEABAT8160 Max.Depth : 3000m) を装備している。
- (4) 深海曳航調査システム「ディープ・トウ」 (深海カメラ、サイドスキャンソナー)
 - ・「ディープ・トウ」の連続潜航は原則、最大 8 日間とする。
 - ・「ディープ・トウ」は、「なつしま」「よこすか」「かいいい」に搭載可能である。
- (5) シングルチャンネル音波探査装置 (SCS)
 - ・「なつしま」「よこすか」及び「かいいい」に搭載可能だが、各船での構成が若干異なるので、それぞれの制限を示す。
 - 「なつしま」及び「よこすか」にはコンプレッサーユニットの搭載が必要。コンテナを搭載する場合は調整を要する。
 - 「かいいい」は固定装備品のコンプレッサーを使用出来ることから、それ以外の機器の搭載だけで実施可能。
- (6) 測深航跡図 (Multibeam Echo Sounder Survey Lines)
 - 「よこすか」「かいいい」「みらい」 (SEABEAM2112)、「かいよう」 (SEABEAM2100)、「なつしま」 (SEABAT8160) による過去の調査海域は別添：測深航跡図 (Multibeam Echo Sounder

Survey Lines) の通りであるが、該当する調査海域では過去の測深データを利用し、海底地形図取得の重複を避ける。

3. マルチチャンネル反射法探査の測線提案型の公募について

“ 深海調査研究中期戦略 ” に示されたように IODP 科学プロポーザルのためのサイトサーベイ等、本年度について海洋研究開発機構所有のマルチチャンネル反射法探査を伊豆・小笠原周辺海域において以下の条件で測線提案型を公募する。

- (1) JAMSTEC が実施する「伊豆・小笠原海域地殻構造調査：大陸棚画定プロジェクト」時に、Ship Time 等の許す範囲で採択測線のデータ取得を実施する。提案測線全てを実施できるかは保証しない。
- (2) 提案者または協力者の乗船は拒まないが、乗船航海で実施できるか、どの行動で実施出来るかは「伊豆・小笠原海域地殻構造調査：大陸棚画定プロジェクト」行動の進捗状況次第となる。
- (3) 原則、船上基本処理データ (Near Trace Section) について提案者に提供する。
- (4) 複数の測線または長い測線を提案する場合、それらの優先順位や主要計測範囲について明確に示すこと。
- (5) 本“ 測線提案型 ” に他の深海公募機器との抱き合わせ提案はしないこと。必要であれば別行動として提案すること。

4. 海域について

- (1) 海図等から明らかに危険と考えられる海域には潜航しない。
- (2) 沖縄トラフ伊是名海穴は、浮き魚礁の撤去作業を平成 14 年度から無人探査機「ハイパードルフィン」の訓練潜航において実施しているが、未だ全ての浮き魚礁の撤去は完了していない。したがって、平成 19 年度も沖縄トラフの伊是名海穴においては、無人探査機「ハイパードルフィン」による潜航調査のみ実施する。なお、南奄西海丘の潜航禁止は有人・無人機共に解除する。

5. 調査海域事前説明、海底地形図情報及び気象・海象情報の提供

研究計画立案の段階で調査海域の事前説明、海底地形図の情報及び気象・海象情報等について情報を提供できる。但し、気象・海象情報データの収集に経費が発生する場合は、実費を請求する場合もある。

6. 調査日数枠

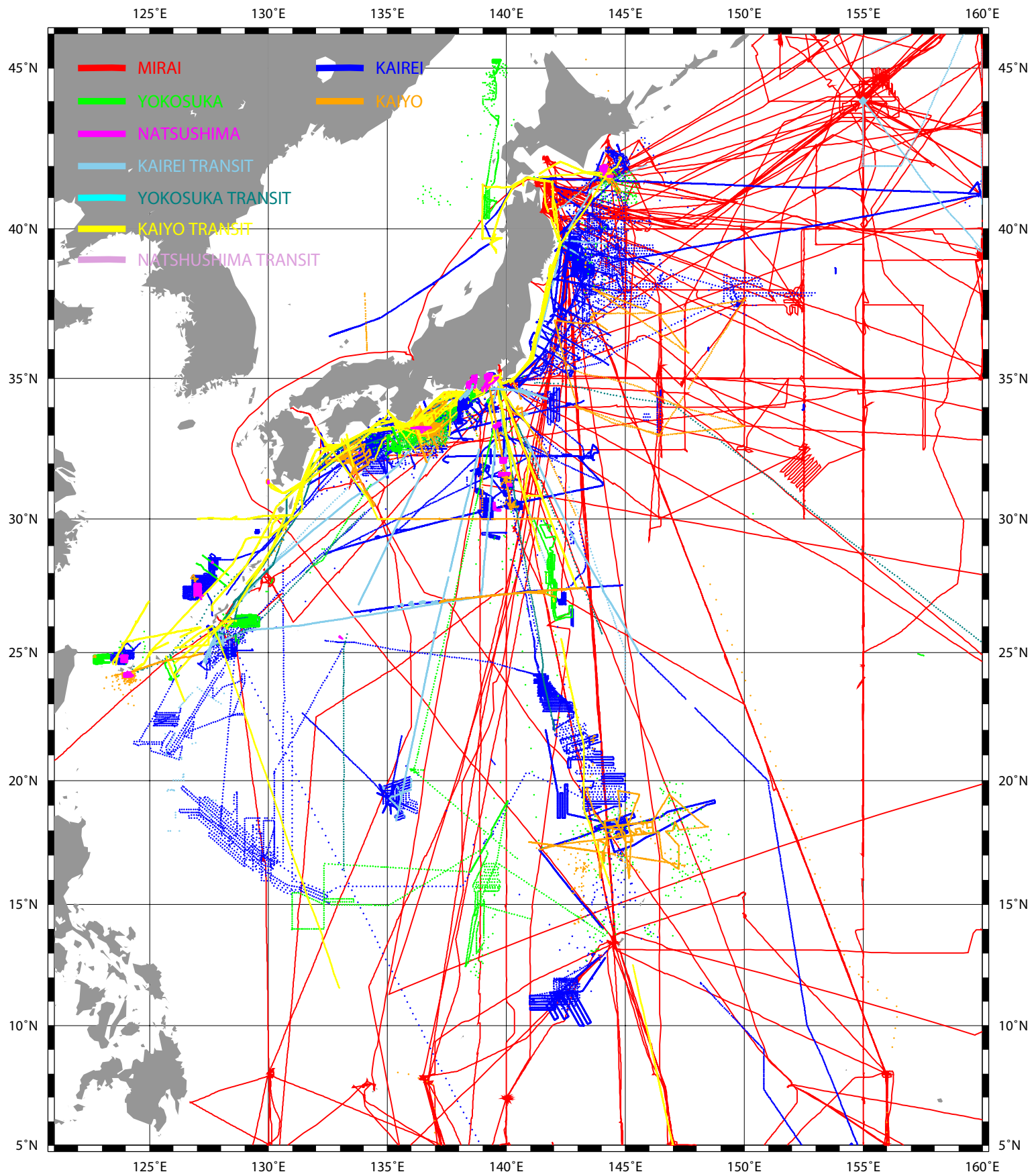
利用船舶の航海日数は、JAMSTEC 所内の航海日数と合わせて原則、260 日程度を計画している。

7. 経費等

- (1) 上記以外の機器の使用を希望する研究者は、プロポーザル申請時にその旨を申請用紙に明記すること。なお、当該機器による観測調査の実施に観測技術員が必要であると JAMSTEC が判断した場合、その経費の負担を研究者に請求する場合もある。
- (2) 持ち込み機器による調査行動で大規模な船舶の艦装替えが必要な場合、その経費の負担を研究者に請求する場合もある。
- (3) 潜水船、無人探査機以外の「ディーブ・トウ」、「SCS」、「ピストンコア」、「ドレッジ」等は、通年での保険付保並びに消耗品の予算化が出来ていないことから、消耗品費の負担を請求する場合もある。
- (4) 原則、寄港地での観測機材の搬入搬出経費や自己都合による乗下船の経費は、研究者の負担とする。

添付： Multibeam Echo Sounder Survey Lines (測深航跡図)

Multibeam Echo Sounder Survey Lines



2004年度の航跡図まで表示
作成 2005. 5. 25